

令和元年（2019年）度第2回今治市地域公共交通活性化協議会 議事録

日 時 令和元年8月9日（金）13：30～14：30

場 所 今治市役所 第2別館11階 特別会議室3・4号

出席者

・委員：越智 博，稲荷 和重，門田 正孝，渡辺 範之，田所 秀志，平野 勇夫，赤尾 宣宏，上岡 大悟，高橋 節哉，島村 裕之，島崎 義弘，三好 哲，新居田 昌彦，村上 友則，砂田 篤志，丹下 隆志，阿部 克也，吉良 雅文，村上 恵子，松村 暢彦，菊池 勝二，加藤 道和
（欠席）窪 仁志，野間 史仁，佐々木 勇太，西山 保幸

・事務局：企画財政部 越智部長
地域振興課 武田地域振興局長（兼）地域振興課長、越智課長補佐，
丹下係長，吉川主事
株式会社オリエンタルコンサルタンツ（計画策定業務委託先）

1. 開 会

企画財政部長：

失礼いたします、只今から「令和元年度第2回今治市地域公共交通活性化協議会」を開会させていただきます。

私、今治市企画財政部長の越智と申します。お手元に配布いたしております会次第に従いまして進めさせていただきますのでよろしくお願いいたします。

なお、本日の会議には委員総数の過半数のご出席がございますので、本会が成立しておりますことをご報告いたします。

また、本会は原則公開で行うこととしておりますので、本日も公開とさせていただきます。

（配布資料確認）

続きまして、開会にあたりまして、今治市副市長 越智博より、ご挨拶を申し上げます。

2. あいさつ（今治市副市長）

越智会長：

皆さま、こんにちは。本日は、大変お忙しい中、ご参集いただきまして誠にありがとうございます。また、日頃より当市行政の推進に関しまして、格別のご理解ご協力を賜っておりますこと、この場を借りまして改めて厚くお礼申し上げます。

さて、今年度第1回目の協議会におきまして、皆様に網形成計画策定調査業務委託事業者の選定方法などについてご検討いただきましたが、これに基づきまして、5月にプロポーザル選定委員会を実施し、調査委託事業者が決まりまして、現在調査事業を実施しているところでございます。

本日は、プロポーザルの結果報告に加え、調査事業の実施状況、特にこれから行います市民アンケート調査について、ご審議をいただきたいと思っております。

委員の皆様におかれましては忌憚ないご意見をいただきながら、会議を進めてまいりたいと考えておりますので、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

3. 人事異動に伴う委員の変更について

企画財政部長：

(人事異動による変更委員、併せて、欠席委員について紹介)

続きまして、次第4「議事」に移りたいと思います。

ここからは進行を越智会長にお任せいたします。よろしくお願いいたします。

4. 議 事

(1) 網形成計画策定調査業務プロポーザル選定委員会結果等（報告）について

越智会長：

それでは議事に入らせていただきます。

まず、(1)「網形成計画策定調査業務プロポーザル選定委員会結果等について」を議題といたします。事務局に説明を求めます。

事務局（地域振興局 越智補佐）：

(資料1に基づき、「網形成計画策定調査業務プロポーザル選定委員会結果等について」説明)

なお、本日は株式会社オリエンタルコンサルタンツにもご出席いただいております。

越智会長：

ただいまの事務局からの報告について、ご意見・ご質問等ございませんでしょうか。

(意見・質問なし)

越智会長：

特にご意見、ご質問等無いようでしたら、以上で「網形成計画策定調査業務プロポーザル選定委員会結果報告等について」を終わります。

(2) 網形成計画策定調査業務の実施状況及び今後の予定について

越智会長：

続きまして、議事の(2)「網形成計画策定調査業務の実施状況及び今後の予定について」を議題といたします。

①「バス利用実態調査の実施報告」、②「市民アンケート調査の実施について」及び③「計画検討スケジュールについて」、事務局に説明を求めます。

事務局（地域振興局 越智補佐）：

こちらにつきましては、調査事業を実施しておりますオリエンタルコンサルタンツよりご説明をいたします。

オリエンタルコンサルタンツ（土崎）：

(資料2、3-1、3-2及び4に基づき、「網形成計画策定調査業務の実施状況及び今後の予定

について」説明)

事務局（地域振興局 越智補佐）：

追加で補足説明させていただきます。先程の資料 4 をもう一度見ていただきたいのですが、資料 4 の真ん中ぐらいにワークショップ準備、10 月頃に実施を検討中と記載しております。こちらにつきましては、松村副会長からご提案をいただき、実施を検討しているものでございます。今回の乗降調査やアンケート調査の結果を踏まえ、地域を絞り込んでバス利用者をはじめとした住民に直接参加してもらい、公共交通に対するニーズや課題などの生の声を伺うとともに、一緒に知恵を出し合うことで公共交通の課題解決等に繋げてまいりたいと考えております。説明は以上でございます。

越智会長：

議事の(2)についての説明は以上で終わりました。只今の説明に対し、ご意見やご質問ございませんでしょうか。いわゆる、具体的に地域の住民や利用者の声というものを把握しているという作業になってこようかと思えます。

砂田委員：

瀬戸内労働組合の砂田です。1 点質問があるんですが、「今治市における外出や移動の状況に関するアンケート調査（案）」資料 3-2 の 1 番最後 6 頁のところですが、(3)「行政による路線バスの運行支援についてどうお考えですか。」というところで、※マークで「なお、バスの運行に対して、今治市は年間 1 億 4 千万円の支出をしています。」という、具体的な数字が出ています。これは、一般市民感覚としては億の金というのは当然高いと感じるわけでありまして、暗に補助金が多いということ誘導している質問というふうに捉えられます。

そしてですね、まだバス以外にも補助金を受けている団体あるいは企業はあるわけでありまして、例えばこういう具体的な億という数字を出すとなれば、今治市の歳入がこれぐらいあると、こういった企業、団体にはこういった補助金を出していると、そして公共交通であるバスにはこれぐらい出しているのだが、これが高いか安いかわりという比較があればですけども、何の比較もなくしてですねいきなり 1 億 4 千万円という数字を出しますと、当然一般市民にアンケートを行う訳ですから、誰が考えてもこれは安いよねとか少ないよねとか思う人はまずいないと思いますので、この数字の出し方についてはいかがなものかと思えます。いかがでしょうか。

平野委員：この数字は昔から出ている数字で、今に始まったものじゃない。

砂田委員：出すことに関してはかまわないと思うんですが、出すにあたって他の、例えば今治市の歳入がこれぐらいあって、こういったものに使われているということと比較対象して出すんだったらいいんですが、新聞記事でも年間 1 回出ておりますが、一般市民の感覚としてはですねそこをこと細かく読んでどうこうかは思っていないと思うので、そこらへんはちょっと考えて出した方が良くないかと思えます。

越智会長：

ご意見いただきました。事務局どうですか。

事務局（地域振興局 武田局長）：

事務局、武田と申します。先程いただいた、ご提案につきましては、確かにそういう一方的

な数値が先走ってしまう恐れはあろうかと思えますし、特にバスを利用していない方、公共交通を利用していない方については、非常にネガティブな意見が先行してしまうのかなという危惧も十分なされます。先程いただきましたもっと総論的な議論ができるような数値を入れたらどうかというご提案をいただきましたので、こちらの方で再度検討させていただければと思いますのでよろしくお願ひします。

越智会長：

ご意見いただきました。他の委員さんから、ご意見、ご質問いかがでしょうか。先程いただいた意見についてでも結構です。

吉良委員：

今の件ですが、補助金がこれぐらい出ているのは高いというふうに感じました。

丹下委員：

意見ではなく情報提供ということです。まず、当協会の観光事業推進に対しまして、本日の地域公共交通の関係者の皆様に、日頃よりご理解とご協力をいただいていることをまず感謝申し上げます。そして、今夏休みそれで夏休み明けましたらこれから本格的な行楽シーズンの秋が始まるんですけども、私どもの協会に問い合わせがある中で、観光客目線からの情報なんですけども、タオル美術館への交通機関の質問が結構多数来ております。諸事情によって非常に難しい、厳しい問題もあろうかと思うんですけど、路線バスのタオル美術館への延長とか、あるいはまた最寄の停留所からタオル美術館との連絡バスの連携、観光に対応しました環境整備の検討などもお願いできたらと思いますので、よろしくお願ひいたします。私からは以上です。

越智会長：

観光関係の検討ということで情報提供をいただきました。

平野委員：

今治駅からタオル美術館まで3千円ほどかかる。

越智会長：

今回のアンケートについて、こうしたらいいという具体的なことではなく、今後の検討の1つの材料としての情報提供ということでよろしいでしょうか。

丹下委員：

それで結構です。

越智会長：

観光の面でいいますと、この間の10連休のゴールデンウィークでは、先程ご指摘いただきましたタオル美術館等々においてはかなりの入り込み客数があったと聞いております。そのような観光客の要望あるいは動向、入り込みというものも今後の検討の中では大事なことになってこようかと考えております。

越智会長：

最初にいただきましたバスの補助金の件については、どういう方向にしますか。

事務局（地域振興局 武田局長）：

即答はできないですが、やはり国全体の補助の流れも含めまして厳しくなっている、制度的なこともあろうかと思えますので、そういう公共交通が非常に厳しい状況であるというこ

とを踏まえたようなことから入って、バスだけこんなに上がっているという言い分じゃなしに、ちょっとそのあたりがトータル的に分かる文章を考えまして、皆様にご意見を聞くということを検討させていただきます。その文面につきましては、また集まっていただく機会はないかと思うんですが、アンケート送付前には各委員さんには送付等で確認していただける場を持ちたいと思っておりますので、ちょっとお時間をいただいて検討させていただければと思います。よろしくをお願いします。

事務局（地域振興局 武田局長）：

最初に申し上げましたけれども、確かに公共交通全体の支援ということでいいですとなんでバスだけという部分もありますので、バスだけにこれだけ出しているという言い方ではなくて、数字は出さずに、公共交通全体これは当然航路もございます、様々な交通手段があると思うんですが、それが非常に厳しくなっていると国全体の制度を含めて、そうした中で皆さんどうお考えですかという切り口の文面に改めてまいりたいと思っておりますので、時間もありませんので早急に検討させていただきますので、今日は持ち帰らせていただいたらと思います。よろしくをお願いします。

越智会長：

事務局の方からは、ああいうふうな方向性で文面を考えたいということで。具体的な数字は出さずに全体の補助金としての現状という文面にとということですが、他の委員さんご意見ございませんでしょうか。

松村副会長：

具体的な金額も重要なんですけども、むしろこの数字が増えているのか減っているのかという情報の方が重要だと思いますので、グラフを載せて年々増えてますとか、将来的にどうなるのか考えたときにこれはしんどい状況になるなというのが多分類推できると思うんですね。だとすると、そういうグラフを載せて説明してあげるのも一案かなというようなことを思いますので、一度ご検討していただきまして最終案を事務局の方で作っていただければと思います。

越智会長：

ご意見いただきました。事務局いかがでしょう。

事務局（地域振興局 武田局長）：

先程も申しましたように、松村副会長を含めましてご提案をいただいたんですけども、その年々厳しくなっていくということ、負のスパイラルじゃないですけども、利用者が減ることが地域や公共交通事業者の皆様に負担になってきているというグラフがいいのか、図面がいいのかそのあたりは即答できませんけれども、市民の方がアンケートに答える際に1つの判断材料になるようなものについて考えさせていただきますので、事前に近々に送らせていただきますのでよろしくお願いたします。

越智会長：

最初にいただきましたご意見については、そのような取り扱いでよろしいでしょうか。

（意見・質問なし）

越智会長：

他に議事2につきまして、ご意見、ご質問等ございませんでしょうか。

吉良委員：

バス路線はもうこれ以上増やせないということですかね。

越智会長：

調査対象の路線ということですか。

吉良委員：

1年前だったかな、バスを走らせるんだったら乗る人が確実にいないと走らせないと聞きました。確実にだれだれが乗りますということで確かな人数がないと走らせないとということなんですか。

越智会長：

アンケート調査については、市民の方々に郵送して、現在の利用状況あるいは考え方につきまして、情報を収集しようとしているものですが。

事務局（地域振興局 武田局長）：

調査を行うのは、あくまで利用実態、あるいはアンケート等々で現状の路線の運行がですね街がどんどん変わっている中今のニーズに合致しているのか、市民の皆様の利用に合っているのか、こういった状況を確認したいということがあります。利用の結果では、乗っていない路線もあるでしょうしここに走っていてくれたらなというご要望もあろうかと思えます。それについて、今後どうしていくのか、ある程度縮小すべきところがあるんじゃないのかなとか、あるいはここはもっと手厚くすべきじゃないのかなというふうなことについては、この協議会には利用者の代表の皆様をはじめ、特に交通事業者の皆様も参画していただいておりますので、皆様の合意の基でそういった議論をしていく、これによって路線の再編というものも検討していかなければならないんだろとと考えております。これは、利用実態の調査結果等を踏まえた第3回以降の協議会でご審議いただきたいと思っておりますのでよろしく願いいたします。

越智会長：

アンケート用紙の1番最後に「その他の意見」という欄もございます。それから、直接的にこういう路線が欲しいということを知るようなアンケート内容には確かになっておりませんが、お住まいの住所からある程度場所がわかりますでしょうし、どのような交通手段が現状であり、どのようなことを求めているのか、概略でしょうがある程度このアンケートで掴めるのかなと思えます。丹下委員より情報提供がありましたように、現状求められるもの、先程は観光というものでしたが、そういう情報もいただきながら今後の検討に役立てていければということであろうかと思えます。

吉良委員：

わかりました。

松村副会長：

ワークショップの提案の趣旨とか思いなんですけども、住民の方々からするとある日突然バスがなくなるという連絡がやってくるというような状況がこれまでだったのではないかなと思えます。それは、住民の方からしたらもう少し早く教えてくれれば、地域で活動するなり個人的に乗ることができたかもしれないのに、突然バスが切られるというのは、非常に困惑する状況がこれまで発生してたんじゃないかと思えます。

それをなるべく避けるために、持続可能な形でのバス路線の維持ということを考えてときに、交通事業者だけで頑張るのが非常に難しい状況にある。公共が全て被るのも非常に難しい状況がある。当然のことながら、地域の方々だけでどんどん利用促進をやっていくのも非常に難しい状況にある。こういった中で、3者もしくは専門家を入れた4者で協力して行きながら、具体的に考えていくことが必要になっているんじゃないかなと思います。

今回、ワークショップというのは、アンケート調査も実施し、実際のバス路線の調査も実施し、どれぐらい乗っているんだという実数も分るわけですね。このデータを持って、地域の方々と話をする、交通事業者の方も話す、市役所の方も話すという形の場を作った方がいいんじゃないかなということです。

そうではないと、多分、どことは言いませんけど、愛媛県内のこのような地域公共交通網形成計画を先行して作っている地域がたくさんあるんですけど、実際にそういうような取り組みをやっているところはまず無いです。残念ながら。結局は、行政の計画で作ってしまいお終いですね。何ら実行しない。PDCAで回しますといいますが、じゃあ5年後にこういう会議を開催して、なにができたこれはできていないというチェックだけをやってPDCAを回しましたという事をやるのが通例です。それだけは避けたいというのが、僕の思いです。せつかく、これだけの皆さんがお集まりになって、ああでもないこうでもないと検討を進めていくわけですねこの1年。であるならば、バスの路線が良くなる、バスだけじゃないですが。地域の公共交通が良くなるような形をトライしてみようというようにきっかけにワークショップができたかなということです。今年度中にバスの新規路線ができるとか、新しいシステムが入るとかそういう夢のようなことはできないかもしれませんが、これを契機に来年度、再来年度に向けて実際に動かしてみませんかという提案です。

これで、先程おっしゃっていただいたみたいに、新しいバス路線ができるとか確約できませんけども、地域の方々が必要と言うのであれば、やっぱり乗っていただく必要もあるし、バスのダイヤを少し変えてくれれば乗れるのになという意見ができれば、ちょっと変えてみようかとか、このようなトライができるような芽としてワークショップを提案させていただいた趣旨です。

渡辺委員：

決して、揚げ足をとるような意味ではありませんが、先程、ワークショップの話をする中で2年、3年という表現が出てきていましたが、この交通網計画が実行されるのは次の年からですか。

松村副会長：

計画ができるのは今年度中ですね。それから、一定期間の間に施策を実施していくことになります。

渡辺委員：

2年、3年、4年とワークショップを実施される中で、その路線についてはその期間保留ということでしょうか。

松村副会長：

それは、その場所のワークショップの成り行き次第だと思います。ワークショップやった

から、必ず何かが変わるということも保障されませんし、変えないということも保障されないと僕は思います。

渡辺委員：

それは事業者として辛いところがありますよね。

松村副会長：

というと、どういうことでしょうか。

渡辺委員：

ワークショップをなぜするのかというところの中で、まず、1つの判断時期として来年実施というのであれば、それがワークショップをすることによって2年、3年延ばされる。たとえば実施した路線はどうしてしなかったんだという批判はないのでしょうか。

松村副会長：

実施しないというのは。

渡辺委員：

ワークショップ。例えば、交通網計画の実施はどうしてするんですか。目的とはなんですか。

松村副会長：

交通網形成計画の目的は、地域公共交通の持続可能な維持ですね。

渡辺委員：

そのためにどうしたら良いかというのは、基本的なところは出ますよね。それで、基本的なところをする中で、ワークショップを2年、3年やられたら、おかしくはならないんですか。

松村副会長：

網形成でどこまで書けるかというのはこれからの議論だと思うんですが、この地域に限定しましょうということは書けないと思います。そうではなくて、交通事業者が一方的にやっていたところを、その前の段階で地域の方々が乗るというような行動ができたりするきっかけができたらいいなとは思っているんですが。

渡辺委員：

地域公共交通網計画を作ったことによって、何ら今の形は変わらないということですよ。

松村副会長：

いえ違います。そうではないです。変えようとした時に、参加型で変えませんかということですね。

渡辺委員：

ワークショップをして参加型じゃないと変わらないということですか。

松村副会長：

いえ違います。それはあくまで1つの方法です。方法なんで、参加しないで変えたほうが良い場合もあるかもしれません。けども、ここで提案しているのはワークショップをした方がいいんじゃないかという所についてワークショップをすべきじゃないかなど。違いますかね。

村上委員：

ワークショップはこの委員の中でするのですか。どこか地域に出かけて行って地域の住民とワークショップをするわけですよ。アンケートの結果から、どの地域でワークショップをや

るかを決めるのですか。

松村副会長：

アンケートからだけではないですが。

村上委員：

アンケートとか総合的に見て、ワークショップの場所を決めるんですよね。どこで実施するのかがわからなくて。

松村副会長：

ワークショップはあくまでも1委員としての意見ですので、そうじゃない皆がワークショップ止めましょという判断をされるのであれば、僕は一向に止めても構わないんですけど。

村上委員：

地域に出て行って、確かに皆さんの意見を聞くことは最もいいことだと思うんです。私らも、引き上げて全部を伝えることはでき難いし、アンケートに全てが出るとも思われないんですよ。私、アンケートをあまり信用しないタイプなんですけれどね。ワークショップは必用でいいと思うんですが、全地域でやるのでは分かるけどある程度選定された地域でやるのであれば、されない地域の人がうちの所はやってくれなかったという話ができる。

松村副会長：

全地域でやればいいんでしょうが、そうじゃなくて、より問題が深刻な地域でやるべきじゃないかなというふうに思います。深刻な地域は交通事業者さんが良くお分かりだと思うんで、1番厳しい状況の地域で1度やってみませんかというのが僕の提案であって、それを交通事業者さんがすべきではないと判断されるのであれば、そういうふうなことを住民の方々に説明されればいいんじゃないかと思います。

村上委員：

私は、大島なんですけど、人口は減少するし、だんだん高齢化しますし、免許の返納はしたいが返納したら交通機関がないし、かといってデマンドバスみたいなものを走らせてくれるかという経費の面でなかなかうまくいかないだろうし。交通機関の方にも市にも大きな負担をかけていると思うんですが、それをいかにいい方向に持っていくか皆さんに検討していただきたいと思います。

越智会長：

ワークショップについては、これからの検討になろうかと思います。しかしながら、アンケートやバスの乗降調査ですくえない生の声というものを、地域においてすくうというのは直にお声を聞くということ、そして今置かれている現状というものを地域の方々に知っていただき、どうすればいいんだということを自分自身で考えていただくということの一つのきっかけであり、我々の計画策定の資料となればということでございます。そして、どのような結果になるとしても、いわゆる参加した上でこういう結果になったんだねということの説明ができればいいなと思います。

一方で、ご心配なようにワークショップができる地域、あるいはできない地域、選定に入らなかった地域においてどういう決定がなされるのか、今日いただいたご意見を含めて今後検討していきたいと思っています。

本年度は、限られた期間の中でということになろうかと思しますので、選定についても今後検討しなければならぬ。今の現状における路線の状況と置かれた課題という中での検討になろうかと思します。ワークショップが今年度で終わるというわけではないということもご理解いただけたらと思します。

阿部委員：

今年度で計画のとりまとめが終わりますよね、そしてワークショップを作られることから検討して行って、どういうふうに変えたらいいか、予算を増やすべきかこのバス路線は廃路にすべきとか色々でますよね。これ速やかにしなければならぬですよ。どんどん世の中の形態が変わって行っていますので、何年もかけていけば昔の話になりますので、躊躇していたら意味が無いので、来春に作成したら来年度すぐに実行に移すようお願いいたします。

越智会長：

地域公共交通網形成計画、これは持続的な地域の公共交通をどうしていくのかということの計画のスタートラインであろうかと思します。その基本的な計画が出れば、どうやって実現していくのか、これは皆さんの理解を得ながらたくさん意見をいただきながらやっていけるということが肝要であろうかと思します。ただ、理想はそうすけれどもなかなか難しい部分も確かにございます。そういう中で、まず計画を立て、そしてその実現に向けて努力をしていくことであろうかと思します。

そういった中で、委員の皆様方にも各地域、団体あるいは事業者の方々の代表でもございます。実現にあたってはご理解とそれから協議を重ねながらその上で決まった計画あるいはそういうふうなことについては、ご理解とご協力をいただきたいということでございます。

越智会長：

他にございませんでしょうか。

(意見・質問なし)

越智会長：

他にございませんでしたら、議事の(2)「網形成計画策定調査業務の実施状況及び今後の予定について」は、ご承認いただけますでしょうか。

(承認)

越智会長：

ありがとうございます。以上で、次第4「議事」を終了いたします。続きまして、次第5「今後の協議会スケジュールについて」、事務局に説明を求めます。

次第5 今後の協議会スケジュールについて

事務局（地域振興局 武田局長）：

(資料5に基づき、「今後の協議会スケジュールについて」説明)

越智会長：

只今の説明に対し、ご意見、ご質問等ございませんでしょうか。

(意見・質問なし)

越智会長：

特に、ご意見、ご質問無いようでしたら、次第 5「今後のスケジュールについて」を終わります。

越智会長：

以上で本日の議事は終了いたしました。酷暑が続いておりますが、皆様ご健康には十分気をつけられてこの夏を乗り切っていただきたいと思います。お忙しいところ、活発な議論をいただきまして、まことにありがとうございました。今後とも、皆様のご意見、ご質問、ご協議をいただきながら、円滑に進めてまいりたいと思います。本日は、皆様どうもありがとうございました。それでは事務局にお返しします。

6 閉 会

企画財政部長：

以上をもちまして、令和元年度第 2 回今治市地域公共交通活性化協議会を終了いたします。長時間にわたりまして、誠にありがとうございました。

(了)